



# われら新成人

〈関連記事 四ページ〉

晴れて今日からは、お酒も飲めるよー

## 今月の主な記事

- 安倍・安東氏シンポジウム……2
- リレー式青空交通安全大会……3
- 好評夏の成人式……4
- 村民体育大会・ジュニア  
リーダー研修会……5
- 安藤物語……6
- おしらせ……7
- 健康への道・戸籍の恋……8



「村おこしとまちづくり」を演題に角田周さんが記念講演をしました。

# 安倍・安東氏の謎を探るシンポジウム

## 二百人が熱心に聴講

八月二日開幕した「安倍・安東氏特別展」の併催行事として、同月二日午後一時からあすなろホールにおいて、安東氏のロマンスと歴史について話し合う「安倍・安東氏シンポジウム」が開かれ約二百人の

聴衆が熱心に耳を傾けました。はじめに三重賞村長が開会あいさつをしたあと、新野直吉秋田大学教育学部長が、「十三瀬と安東氏」を演題に基調講演を行い、「古代から十三瀬は、大陸文化に対する北

の玄関口であり、安東氏はここを根拠地に、鎌倉幕府の蝦夷管領として津軽、北海道に大きな勢力を保持していた」と述べました。シンポジウムでは、豊島勝藏市浦村史編さん委員長、崎水徳北海道上ノ国町文化財係長、辻宗顕秋田県安東氏顕彰会事務局長、原宏福島県三春町教委文化課長の四人のパネリストで、織村朝次郎秋田県男鹿市史編さん委員長を司会に進められました。

このなかで、安東盛季が北海道に渡った時期と死んだ時期が、本州側と北海道側では二十数年のずれが生じていることなど、謎のベールに包まれていることがわかり、安東氏の限らないロマンスと歴史についての話し合いが続きました。

今後は、相互に連絡を取り合い、少しでも謎を解明していくことで一致し、このシンポジウムが継続されることを望んでいます。



あすなろホールで開かれた「安倍・安東氏シンポジウム」



パネリストのみなさん



熱心に耳を傾ける聴衆



基調講演をした新野直吉秋田大教授

### 献血功章に

#### 丁子谷悟さんほか

献血運動を全民的な国民運動として盛り上げるため、毎年七月一日から一カ月間「愛の献血助け合い運動」が展開されています。

七月二十七日、五所川原市で開催された推進大会では、丁子谷悟さん(相内)が金色有功章を、村山恭一さん(相内)と加納あや子さん(十三瀬)が銀色有功章をそれぞれ受賞した。この日は、三重賞村長から伝達されました。

この章は、献血回数三十回以上の人には与えられるもので、本村では、村山さんが十二人目、加納さんが十三人目です。なかでも丁子谷さんは、献血五十回を達成し、金色有功章に輝き、本村の第一号となりました。



受賞した前列左から丁子谷さん、加納さん、村山さん

# 事故防止に青空リレー

## リレー旗引き継ぎ決起大会



村役場前で行われた決起大会

金木警察管内をリレー方式で結ぶ、第七回リレー方式交通安全大会が七月二十一日行われ、二町二村のキャラバン隊が交通事故の防止を訴えて、地区内をパレードしました。

この大会は、夏の交通安全運動にあわせて毎年行われているもので、一つのリレー旗を金木、中里、市浦、小泊の各町村長が受け継ぎ、地区住民が一九となって交通事故防

(3) 広報こうら

民が一九となって交通事故防

止の徹底をはからうというものです。

この日は、白取栢金木警察署長をはじめ四町村の担当者、各地区の交通指導隊、交通安全協会などの関係団体が参加し、金木町役場前から国道三三九号を北上、午前十時二十分から村役場前で市浦地区の決起大会が開かれました。

まず、高松寛蔵中里町助役から工藤誠一郎市浦村助役へリレー旗が引き継がれ、土岐

輝雄金木地区交通安全協会長らあいさつのおと、相内保育所父母の会会長の三浦みや子さんが大宣言を述べました。このあと、リレー旗は小泊村へ引き継がれ、飲酒、暴走運転の追放、シートベルト、ヘルメットの着用の徹底を呼びかけました。

### 大会宣言

私たちの住む市浦村では、今日まで交通事故ゼロの日が、二千五百九十九日続いています。これは、時速四十キロで計算しますと、約二百七万二千キロの距離になります。つまり、昼夜の区別なく車で地球を約五十二回走り続けている、なお死亡事故が出ていないという、すばらしい記録です。

しかし、この記録は運転者や地域住民など、すべての人々が本心に交通ルールやマナーを守ったために、成しとげられた記録であると言いつけるのでしょうか。一人ひとりの胸に誓いをあてて思いおこす時車を運転中に、アッ、と思っして冷や汗をかいた事はないでしょうか。

全国では、毎年一万人もの尊い命が、交通事故で失われ

ています。これを交通事故と云うか、交通地獄と言っています。私たちがの村においても死亡事故ゼロこそ続いているが、死亡事故につながるような交通事故が多くなっているという聞いています。

こうした痛ましい交通事故をなくし、平和な家庭を築くためにも、年中行事化している交通安全運動を根本から見直す必要があると思います。運転者もそして道路を利用する人すべてが、お互いに理解を深め協力し、実践する以外に交通事故を防ぐ道はないと思います。

「心とりこそ無事故につながる道しるべ」。このスローガンを合言葉に、交通安全思想と交通道徳の普及徹底をはかり、実践を通して交通事故防止に、より一層努力することを宣言します。



三浦みや子さん

大会宣言を述べた

## 死亡事故撲滅を訴え 名古屋市西村さん



村役場を訪れた西村さん

「正しい交通ルールとマナーを身につけ、安全運転をしましょう。」と、オートバイで全国の市町村を回りながら、交通死亡事故撲滅キャンペーンを繰り広げている、名古屋市の在住の西村互さん(64歳)が七月二十一日、村役場を訪れました。

西村さんは、出身地の北海道が毎年、交通死亡事故で全国の上位にランクされているため、死亡事故撲滅の願いを込めて、全国一周キャンペーンを計画、六十三年四月から全国行脚を始めました。

これまでに、北海道の全市

町村を約七カ月かけて回ったほか、愛知、香川、徳島の三県のはずれ五日で、弘前市をかわきりに各市町村を回り、今回本村に立ち寄ったものです。

午前九時に到着した西村さんは、村長室を訪れ、工藤誠一郎助役に「撲滅」と書かれた色紙を手渡し、「全国から死亡事故がなくなるように」と訴えました。

これから予定では、県内六十七町村を回り、次の目的地である岩手県に向かうことになっています。

# 社会人として責任ある行動を

## 44人が大人の仲間入り 決意も新たに



軽装で出席できると好評の夏型成人式

本村の成人式は、八月十四日午前十時から十三湖中の島にある地域活性化センターで行われました。

今年村内で大人の仲間入りをするのは四十四人（男三十一人、女十三人）式には新成人二十七人と、主催者ら約四十人が出席しました。

村では、昭和六十年から夏型成人式を行っており、お盆休みや夏休み等で帰省するはたちも多く、新成人の服装も女性はやウソビス、男性はワイシャツ姿という軽装成人式がすっかり定着しました。

式典では、木村義光教育長が「多岐におたつて困難の時

### 誓いのことば

をはじめ、社会のあたたかい保護のなかで育てられ、成人を迎えることになりましたが、これからは、社会の一員として全ての行動に責任を持たなければなりません。

そのために、不断の研鑽をかさね、自己啓発に努力したいと思えます。

しかし、社会の移りかわりの早い昨今、私たちは人生経験も短かく、生きていくうえで困難な局面が多いと思えます。

でも、そのこに堪えていかなければなりません。これからは、皆様の尊い人生経験をご教示くださる様お願いいたします。

私たちは、今日の感激を一生忘れることなく、感謝から頂きましたご好意を大切に、社会人として、生懸命社会のために尽くしていきたいと思

今日、私たちがのために本当にありがとうございました。



新成人代表

三和裕子さん

これまでの私たちは、両親

木村教育長から記念品が手渡されました



代ではあるが、市浦人としての誇りを持ち、立派な社会人として頑張ってほしい」と式辞を述べたあと、三重真村長、工藤武則村議会議長らから激励、お祝いのごぼうがありました。

このあと、新成人に記念品を手渡され、新成人を代表して、三和裕子さんが誓いのことばを述べ、一人ひとりが自己紹介をしました。

式典後は、雪国地吹雪体験実行委員長角田周さん（金木町在住）が「村おこしとまちづくり」を演題に記念講演を行い、大人の仲間入りをした若者たちは、熱心に耳を傾けていました。

また、広場の四阿で祝賀会を開き、何年かぶり顔を会わせる仲間も多く、なつかしさも手伝って会話ははずんでいました。

## 金木高 相内分校 海浜清掃に「汗」

公共の場である十三湖の清掃を通し勤労、奉仕の精神を養う。団体行動を通し規律、協力の精神を養う。県立金木高等学校相内分校の生徒、教職員が七月十九日、十三湖津波の塔付近を中心に、清掃奉仕作業を行いました。

同校の期末テストが終わったあと行われているこのクリーン作戦は、昭和五十四年から毎年続けられているもので、この日も全校生徒二百二十人と

準備した三十余りのごみ袋もたちまちいっぱいになり、周辺は見違えるようきれいになりました。



ごみ集めに精を出す相内分校のみなさん

選手宣誓をした中島さん親子



# 第16回 村民体育大会夏季大会

## 1,000人が親睦深める

### 太田チームが総合優勝

第十六回村民体育大会夏季大会は、七月十六日午前九時から十三小学校グラウンドにおいて開催されました。

この大会は、「スポーツを通じて体力の増進と村民相互の親睦を深めよう」と、毎年七月の第三日曜日に、村内地区別班対抗で開かれているのですが、村内各地区の地域性を生かし、一人でも多くの村民に参加する機会を与えるために、会場を持ち回りにしています。

今年は、村内から九班が参加し、子どもからお年寄りまで、選手を含めて約千人の村民が参加しました。競技種目は、輪投げ、二人



タバコのめ競走



米まき競走

三脚、借り物競走、タルころがし、親子三代りレーなど、子どもからお年寄りまでいっしょに楽しめるものばかり。開会式では、木村義光大会長が「日頃鍛えた技と力をいかんなく発揮し、楽しい村民体育大会にしてください。」と激励のあいさつをし、名誉大会長の三重真村長、高橋俊一、小浦宮林署長、島田益一、十三小学校長がお祝いのことばを述べたあと、中島英雄さん、万里子ちゃん親子(十三第一チーム)が力強く選手宣誓をして競技に入りました。

また、この大会は毎年三月に開催している冬季大会との総合優勝制をとり入れている



輪投げ競技

ことから、応援にも熱が入るなど、会場は一日中援と爆笑がこだましていました。◎競技の結果は次のとおり。優勝太田チーム(14点)、準優勝相内第三チーム(13点)、第三位十三チーム(12点)、第四位十三第二チーム(11点)、第五位臨元第一チーム(11点)、第六位相内第一チーム(10点)▼綱引きは優勝太田チーム▼年齢別レーは優勝(男)十三第一チーム、同(女)臨元第一チーム

◆功労者(五年間団長・監督)表彰 団長は秋田谷清司、石岡鉄義、監督は三浦忠雄、佐藤洋子、成田教子。

団体生活を通して、自主的な判断力と実践的な行動力を身につけよう。豊かな自然の中で楽しい野外活動の技術を学びとり、すばらしい友情をつくり出そう。と、村内小学校五年生による「子ども会ジュニアリーダー研修会」が、七月二十四、二十五の両日、十三湖の中島公園キャンプ場で開かれ、テント設営や炊事など、リーダーとしての心構えを学びました。

研修会には、村内四つの小学校から四十二人の子供たちと、村子ども会育成連合会から四十人が参加しました。また、講師は村教育委員会職員と地元の人たち十八人が



楽しかったキャンプファイヤー

## 野外活動で 友情の輪

子ども会 J・リーダー研修会



ちょっと薄味だったかな——

勤め、手づくりの研修会となりました。夜には、全員がキャンプファイヤーの火を囲んで、歌やゲームなどを行い、楽しい思い出をつくりました。

# 史跡物語

## 13 安藤氏の先祖 (13)

### 中と豆博覧

オープンしました。

#### これが本当の 安東展だ

私たちが年々願望してきた、「歴史民俗資料館」が中の島(本称中島)公園に完成して八月一日「安藤宗季」より第二十五世の秋田一季<sup>あきひと</sup>をお迎えして輝かしく



わりをもっています。全国の市町村首長によって未来水<sup>みらいみづ</sup>劫を祝福して感激のテープが切られた瞬間、胸にグーとこみ上げてくるものがあって、萬雷の拍手の止むのも忘れてひとり拍手を続けていました。

これからは、諸所の方がたの絶讃<sup>ぜつさん</sup>のお言葉を私たちに分析<sup>ぶんし</sup>してみることが必要だと思えます。オープンしてから現在まで(八月二十八日)の参観者が実に八千数百人という盛大さですけれど、私たちはこれに酔うてはいけません。安藤(奥藤)氏に聞こえお持ちの次のお言葉が私の胸を痛めます。「これが大変だね」、「安藤安東氏展」は八月一ばいで終了するのでけれど、この「資料館」の展示運営

をどのようにするつもりかという暗示のお言葉を私たちは痛烈に受けとめて運営をしいかないといけません。村当局の三役、高松、桑野および各課長、村会議員、直接管理の木村教育長、このたびの「安藤安東氏展」を大成功に導き、運営企画した葛西事務局長、寝食を忘れ「命がけです」と東奔西奔した佐藤学芸員がたにはすでに次の段階に向かつて構想を練って構築<sup>こうか</sup>されていることでしょう。(失礼御免)

今後訪問される方がながみ満足して市浦村の歴史を学んで帰られるように応待<sup>おうたい</sup>することが市浦村の発展にも連なり、中世の安藤安東氏をふるさと市浦村に蘇<sup>よみがえ</sup>させ現代に生かす方法となるもの確信します。ほんとうに「これが大変」なことです。

#### せんぞりてわあり 在先祖而在我

中の島歴史民俗資料館のオープンに御来村された秋田一季様、十三湊安藤氏の後胤<sup>ごいん</sup>が前夜祭やオープン時に話された名言に、「先祖ありて我れあり」があります。

これは、秋田や福島に出でた節もおられるが、特に安藤氏の発祥地市浦村を、ご訪問なされた感戴<sup>かんだい</sup>から、おかけやご声をかすかに響かせながら、「これは私だけの先祖ではありません。市浦村民全体<sup>しつぽんりんたい</sup>の先祖であります。私は現在を先祖の名を恥かれないように、一日一日を大切に暮らします。」と結ばれました。祖先の発祥の地十三湊

を訪問され感戴無量なものがあったものでしょう。二、三回繰り返してご自身噛みしめるように仰せられまし。この名言を私たちが市浦村の皆さまの座右としたと思います。

#### 安藤祭は盛大に

先月土曜の「博覧祭り」の山車に招待されて市浦村から二十数名参加しました。一年の生活の総決算をこの行事に結集させている土崎市民の意気に感じました。写真は二十代モデルの浅安藤氏時代の山車を再現した壮大なものでした。一年の生活の労働の汗をこの祭りで流し、次の生活の活力として流しているように思われま。市浦村民<sup>しつぽんりん</sup>挙って来年の安藤祭を恒久的行事とするような企画が望まれます。

情報をお寄せください

# あしらせ

役場の電話は62-2111



たのしいきゅうしよくのじ  
かんは、おいしいのでたべず  
ぎてしまうの。



## 出稼ぎを希望される方へ

本年度も秋冬期出稼ぎ労働者を対象とした現地選考会を実施します。出稼ぎを希望される方は、この機会を利用し、正規の手続きを経て「安全で明るい出稼ぎ」をしていただくようお願いいたします。

### ◎日程及び参加都県名

- 10月2日(月)一東京都・千葉県
- 10月4日(水)一神奈川県・埼玉県
- 10月6日(金)一静岡県・愛知県

### ◎現地選考実施会場

- 北地方教育会館(五所川原市平井町) 電話35-2088番
- ※お問い合わせは五所川原公共職業安定所へ。電話34-3171番

## 税の何でも相談

商工業者、一般住民の皆さん、税に関する悩みや疑問がありましたら、ぜひ「税の何でも相談」を御利用下さい。

たとえば、土地・建物の譲渡、相続、贈与や消費税に関すること、その他記帳や経営など税のことならなんでも結構です。私共で委嘱している税理士が担当し、相談は無料です。お気軽にご相談下さい。

### ▶とき 9月12日

AM10:30～12:00

### ▶ところ 市浦村商工会

※相談者は予め9月9日までに商工会へお申し込みください。

## 巡回消費税

### 相談コーナー開設

消費税の仕組みや手続き、届出

書や申告書の書き方など、消費税のことや大幅減税を含む税制改革についての質問、相談に税務署の職員が応じます。

お気軽にご相談ください。

### ▶とき 9月18日

AM10:00～12:00

### ▶ところ 市浦村商工会

## 警察官(B)・交通巡視員募集中

青森県警察本部では、高等学校卒業程度の人を対象として警察官及び交通巡視員を募集しております。

### ◆募集期間 8月28日～9月18日

◆採用予定人員 警察官約20人、交通巡視員約1人

◆受験資格 警察官一昭和37年4月2日から昭和47年4月1日までに生まれた男子で、高等学校を卒業した者又は、平成2年3月31日までに卒業する見込みの者。交通巡視員一昭和41年4月2日から昭和47年4月1日までに生まれた女子。

※詳しくは最寄りの駐在所、派出所又は、金木警察署(電話53-2117番)までお問い合わせください。

なお、警視庁、神奈川県、千葉県、埼玉県、及び静岡県等の警察官を希望も同時に受験することができます。

## 「目で見える県政婦人バス」参加者募集

県では、県政に対する理解を深めていただくために、今年も「目

で見える県政婦人バス」を開催いたします。

つきましては、参加者を募集いたしますので、ご希望の方は応募要領のとおりお申し込みください。

### 1.開催日 9月19日(水)

2.対象者 西津軽郡、北津軽郡及び五所川原市に在住の20歳以上の女性

### 3.募集人員 40名(先着順)

4.見学施設 ①りんご試験場(黒石市) ②総合社会教育センター(青森市) ③消費生活センター(青森市)

### 5.参加費用 無料(昼食付)

6.応募要領 往復はがきの往信に①住所(郵便番号)②氏名③年齢④職業⑤電話番号⑥乗車場所(鯉ヶ沢町役場、森田村中央公民館、木造町役場、五所川原市役所のいずれかの場所に限ります)を、返信に宛名を記入の上、次のところにお送りください。

7.送付先 〒030青森市長島一丁目1-1 青森県広報広聴課婦人バス係(電話0177②-1111番、内線2208)

8.応募締切 9月9日(当日必着)

9月 台風

断線した電線にはさわらない  
(財)東北電気保安協会



奈良廣悦さん

なお、差別を受けたり人間関係にまつわるトラブルで悩んでいる方は、気軽に、全国の法務局、地方法務局とその支局や人権擁護委員にご相談ください。

相談は無料です

秘密は守られます

▼市浦村の人権擁護委員は次のとおりです。

奈良廣悦

相内字相内六九の一  
電話①〇〇八番

成田 永吉  
電話②一三二五番

磯松 赤川三の五〇  
電話③一三五二五番

相坂 潔刀  
電話④一〇七四番

十三字深津 一三二

電話⑤一〇七四番

電話⑥一〇七四番

電話⑦一〇七四番

電話⑧一〇七四番

人権擁護委員に  
奈良廣悦さんを委嘱  
新しく人権擁護委員に、相内  
の奈良廣悦さんが、七月十五  
日付けで法務省から委嘱され  
ました。



▶41◀

## 九月は生き生き健康づくり月間

(五つの花びら)

海の幸、山の幸、バランスのとれた薄味の実生活を実践しよう

●多様な食品で栄養バランス (一日三十種類の食品を)

●自家生産品の上手な利用

●調理の工夫で無理なく減塩 (二つの花びら)

●自然に頼り、適度な運動で心身にやすらぎを与えよう

●運動習慣を身につけ、心地よい汗を流そう (三つの花びら)

●家族ぐるみで地域ぐるみで進んで健康受診を

●年に一度は健康確認 (四つの花びら)

●早期検診を家庭医を持ち、村の診療所を利用しよう (五つの花びら)

昭和六十二年度から始まった「生き生き健康県民運動」は、県が中心になって成人病による死亡率を全国的にみても高く、短命県返上の趣旨で推進してきました。

本年度は新たな試みとして、モデル保健所に五所川原保健所が、また市浦村が推進町村に指定されました。活動期間は二年です。

◎りんごの花びら五つの実践 (二つの花びら)

## どうぞよろしく



駐在保健婦 山崎 正子さん

### 健康生活の実践を

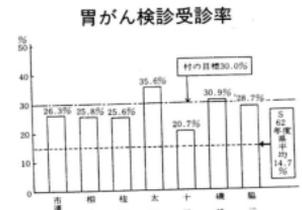
市浦村に赴任し、早いもので五ヶ月を過ぎようとしています。

当村との出会いは、保健婦学生の頃と市浦村担当保健婦の役割で、村の保健活動に参加した時のことでありました。当時の懐かしさや、皆さんから声をかけられる時が、一番うれしく思いました。

健康は生活の源であり、行政サービスをうまく活用し、健康生活の実践をめざしていきます。

高齢化社会に突入していますが、お互い、長生きは幸せと言えよう頑張りますよ。私の担当地区は、相内、桂川、太田の三地区です。これからもよろしく願います。

平均寿命			死因状況	
		平均寿命 (市町村順位)	順位	死因
県	男	71.5歳	1位	心臓病
	女	78.2歳	2位	癌
市浦村	男	71.4歳 (38位)	3位	脳卒中
	女	76.9歳 (61位)		



## もや焼を展示、即売

昭和三十八年から制作に取り組んでいる陶芸作品(もや焼)を、地域活性化センターのレストラン内にある特産品コーナーで展示、即売しており、観光客からたいへん好評を得ています。写真クラブでは、技術者の育成をめざすほか、後継者の育成にも力を入れています。



## 戸籍の窓



お誕生

- 花村 一夫 (東京)
- 相橋 昌子 (十三)
- 相川 忠美 (十三)
- 福士 又子 (浪岡)
- 葛西 成光 (松島)
- 三浦 英満 (相内)
- 千代 美満 (相内)
- 西条 千代美 (宮内)
- 藤田 真理子 (青森)
- 伊藤 学 (森)

- 武田 明莉 (太田) 第一
- 植野 由華子 (太田) 謙一
- 石澤 輝 (脇元) 信司
- 成田 智哉 (相内) 徹
- 木村 杏奈 (十三) 一臣
- 須藤 麻友 (磯松) 秀昭



ご結婚

- 佐々木 隆治 (車力)
- 石澤 慶子 (十三)

## おくやみ

- 浦田 妙子 (十三) 39歳
- 工藤 清佐 (十三) 47歳
- 三上 サツエ (脇元) 67歳
- 木津谷 良 (相内) 80歳
- 工藤 真 (脇元) 83歳
- 石岡 陽一 (脇元) 69歳
- 萬谷 学 (脇元) 32歳